

日本赤十字九州国際看護大学

The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

キャンパス通信 第3号 2012年4月—2012年9月



医療用ピンセットの使い方を学ぶ2年生

3年生

「国際保健・看護Ⅱ」海外研修 ― ブータン王国とタイ王国を訪問

3年次選択科目「国際保健・看護Ⅱ」での海外研修を、8月1日から8月10日までの8泊10日の日程で実施しました。

今年度の研修先は、昨年、新婚旅行を兼ねて国王が訪日されたブータン王国と、本学の交流協定校があるタイ王国です。ブータンは、標高3500mを超える峠が多い国で、ほとんどの活動拠点は小さな首都ティンブーに限られますが、研修期間中1日は地方村落に移動して健康診断や村の人たちとの交流を行いました。タイでは、タイ赤十字社や交流協定校であるタイ赤十字看護大学を訪問しました。

研修3日目



8月3日早朝にバンコクを出発し、約3時間のフライトでブータン王国に到着しました。そびえ立つ山々とどこまでも続く青空に魅せられています。私達が現在滞在している首都ティンブーは標高2300mに位置しており、酸素が薄く少し頭がぼーっとしてしまいます。JICA事務所を訪問し、所長の仁田さんにブータンの概要とJICAの活動についてお話を伺いました。ブータンの提唱するGNHIは大変注目を集めていますが、ブータンは幸せになろうとまじめに取り組んでいる国であるという仁田さんの言葉が印象的でした。その後、看護学校を訪問し、教室や演習室を見学し、学生と交流しました。同世代の看護学生と話がはずみ、楽しい時間を過ごすことができました。またブータンでは男性が助産師資格を取得することができる点に驚きました。

記：3年 坂本 愛

8月5日、標高3200mのドチュラ峠を越えてプナカを訪れました。まず、プナカ病院を見学させていただきました。入院病棟には、お坊さん専用の病室があったり、仏壇が必ず設置されていたりします。ブータンが仏教と密接に関係していることを示します。日本では見られない光景で、皆興味深く見学していました。夕食は、JICA事務所の仁田所長、JICAで活動されている看護師や管理栄養士などの方々と、日本ブータン友好協会の渡辺会長ご夫妻と一緒にしました。普段では聞くことのできない日本とブータンの看護の違いや、実際に行ってきた医療支援事業の具体的内容を伺うことができました。今後の看護のことについてだけでなく、自分自身の将来を考える有意義な時間となりました。

記：3年 坂田 瑩

研修5日目



研修9日目



8月9日研修の最終日、まずタイ赤十字社と毒蛇・感染症研究所を訪問しました。タイ赤十字社は日本赤十字社と同じ役割に加え、臓器移植や毒蛇の研究、洪水に対する災害対策や災害救護を行うなどタイのニーズに合わせた活動を行っていることがわかりました。午後からは本学の姉妹校であるタイ赤十字看護大学を訪問しました。“Reproductive health issues and Nursing challenges”のテーマの基、5つの小グループに別れ、Unprepared/teenage pregnancy, STD/HIV prevention and treatment, Antenatal Care...service, Family planning, Legal/Illegal Abortionの5つについて、タイ赤十字看護大学の学生とグループごとにディスカッションを行い、タイの現状や問題点を知ることができ、同時に日本の問題についても考えることができました。また全て英語でのディスカッションであったことからなかなか意見を伝えることが難しいことも多かったのですが、お互いに協力することで解決できました。

記：3年 大曲 愛美

1年生

看護の第一歩 ―「コミュニケーション」を学ぶ、宿泊研修にて



新生生を対象とした『フレッシュマン宿泊研修(1年次必須科目「人間関係論」)』を、4月12日から1泊2日で福岡県立少年自然の家「玄海の家」において行いました。プログラムは、グループエンカウンターエクササイズ(各種アイスブレイキング、ブラインドウォーク、海浜での砂の芸術、「バスは待ってられない」など)を中心に構成されました。新生生は、始めは緊張していたものの、お互いに笑顔でいること、人の話をきちんと聞くこと、正確に情報を伝えること、誰かがやってくれるという態度ではグループにより良い結果が生まれないこと…などを徐々に理解し、楽しみながら、そして自分自身を見つめなおしながら、人間関係の基本的姿勢を学んだ様子が伺えました。研修の最後に「赤十字活動」のDVDを視聴する機会を設けたことで、本学に入学したことの意味を改めて自覚できたようです。これから4年間、赤十字の「人道」の理念を学び続けるとともに本学の学生としての誇りをもって日々成長してほしいと思います。

記：「人間関係論」科目担当 教授 北島 茂樹

2年生

病院実習に向けての学内演習 ― 地域の方々の協力を得て

9月に始まる2年生の必修科目「看護過程の展開実習」の演習を7月30日に行いました。この実習で、学生は初めて病院に入院している患者さんを受け持ちます。その前段階として、地域の方の協力を得て、模擬患者として演習に参加していただきました。演習終了後、学生は「模擬患者の実際の表情や言葉から私達の行う援助に対してどのような感情をもたれているのかを感じることができ、一方的な看護をしているということにも気が付いた。」「とても緊張して、練習でやれていたことがうまくできないことがあった。病院実習の時に戸惑うことがないように練習を重ね、9月の実習に繋げたい。」と話していました。協力いただいた地域の方からは、「学生がしっかり練習していた事が伝わった。」「背中を拭いてもらって気持ちよかった。」「タオルが冷たかったので学生に伝えた。」等の感想もいただきました。実際の患者さんの声に近い意見や感想をいただく機会になり、学生にとって学習への刺激になっていたようです。

記：「看護過程の展開実習」科目担当 教授 本田 多美枝、講師 阿部 オリエ、助教 小手川 良江



4年生

赤十字病院合同就職説明会と就職支援セミナーを開催



来春、就職する4年生を対象に「赤十字病院合同就職説明会」と「就職支援セミナー」を開催しました。赤十字病院の看護師や助産師、行政機関の保健師として活躍している5名の卒業生から、学生時代の就職活動中の苦労話や国家試験対策で工夫したこと、その他、現在担っている業務内容や今後の抱負等について講演をしていただきました。その後、全国から34の赤十字病院が参加するブース形式での就職説明会が行われ、学生たちは積極的に各病院の就職担当者から話を伺っていました。参加した学生は「どの施設も新人教育が充実しており比較が難しいが、自身の今後の就職活動に役立つ情報をたくさんいただいた。」と感想を述べ、これから本格的に就職活動を始めるにあたり、大変有意義な一日になったようでした。

記：学生支援委員会

キャンパス日記から

4月5日
入学式



満開の桜が咲きほころぶ本学オーヴァルホールにおいて平成24年度入学式を執り行い、今年は、学部生108名、大学院生7名、認定看護師課程研修生31名が入学しました。

式典では、福岡県の海老井悦子副知事をはじめ、宗像市、地域コミュニティ運営協議会、実習施設、学生支援団体の方々に来賓としてご臨席いただき、また、九州各県の赤十字病院長・看護部長など日赤関係者も多数お祝いに駆けつけてくださいました。喜多学長は、式辞の中で、深く広い教養と知性を身に付ける場が大学であり、大学で過ごす貴重な時間としての学生時代を大切にしたいと述べられました。

また、学部2年生の前田弥郁さんが日本語で、山内智子さんが英語で、それぞれ在學生を代表して歓迎のことばを述べました。

式典の最後には、新入生代表の唐田佳奈さんが、「個々の生命と健康を守り、人間の尊厳を尊重する赤十字のhumanityの理念のもと、常に自ら学ぶ姿勢を維持し、意識を高めていく決意です。今日のこの気持ちを忘れることなく、ここで出会った仲間たちと共に、共通の目標に向かって励ましあい、情報を共有し、自己啓発に努めていくことをいまここに約束します。」と力強く誓いのことばを述べました。

記：総務課

5月21日
国際フォーラム

聖アンソニー看護大学院学部長シャノン・ライザー博士をお招きし「看護職の役割拡大～病院から地域へ～アドバンスプラクティスナース（APN）の役割」という演題で国際フォーラムを開催しました。APNは、現在日本でも導入に向けた検討が進められている「ナースプラクティショナー（NP）」や「クリニカル ナース スペシャリスト」と呼ばれる看護専門職の総称ですが、アメリカでは既実践され成果が積み重ねられています。講演内容はAPNの役割、聖アンソニー看護大学における看護師教育、マグネットと呼ばれる第三者評価認定システム、クリニカルナースリーダー（CNL）の役割、看護職の中でのいじめ、と大変豊富な内容でした。卒業生からの「今後の日本の看護の発展において必要なものは？」という問いに対し、博士は「専門性」と即答されました。そのうえで、「30年前の米国の看護師は同一性を求められていたが今は専門性を求められている。日本の看護師も今後は自分の専門性を強化する必要がある。」と強調されました。アメリカの実態を知ると共に、今後の日本の看護職のあり方について考える貴重な機会にもなりました。

記：FD/SD委員会



6月30日・7月7日
アグリスクール（第1講・第2講）



本学とJA宗像、福岡教育大学とのコラボレーションによるアグリスクールが今年度も開講されました。これは、農業体験を通して現代の日本の「食」の問題と、「食」と健康の関連を学ぶことを目的に行われています。6月30日には、JA宗像が主催するアグリスクール第1講として「田んぼアート」が行われました。梅雨空の下、参加した20名の学生は慣れない泥の感触にとまどったり、オタマジャクシやカエルに悲鳴をあげたりしながらも、楽しく田植えを行いました。腰をかがめ、泥に足を取られながらの作業は大変でしたが、宗像の自然や地域の方と接する活動は私たち学生にとって新鮮なものでした。

記：1年 唐田 佳奈

7月7日には、第2講が開講されました。大雨の影響により、予定していた枝豆の定植が中止になりました。実際にはできなかったものの、農家の方々が代わりに種をまいてくださり、10月には収穫できることになりました。また宗像の郷土料理を知るための調理実習では絞めた直後の鶏を、一羽ずつさばき、おいしくいただきました。鶏を丸ごと一羽さばくという学生ではなかなか経験することができない貴重な体験を通して、命をいただいて、私たちの命はつなぎとめられているのだということ、実感することができました。

記：2年 小川 茜

7月3日 国際シンポジウム



「世界の健康—活躍する先輩からのメッセージ」をテーマに、第12回国際シンポジウムを開催しました。今年のシンポジウムは、アジア、アフリカ、南米の諸地域で、国際保健医療の専門家として活動実績を築いてこられた諸先輩方（卒業生4名）をシンポジストとしてお招きしました。世界には貧困や医療環境の不備などで健康を害し、援助を必要としている人々が多くいること、また現地での保健医療活動の実際と直面するさまざまな困難、そして看護師、保健師としての多様な関わり方があることを、国際保健医療分野の専門家から直接聞くことができ、実りある討論の場を持つことができました。本学では、赤十字の人道の精神に基づき国際的な視野に立った看護が実践できる看護師を育成するために「ひとりを見る目、その目を世界へ」をスローガンとしています。グローバル社会に生きる一人として、未来への展望をしっかりと持ち、現在を大切に、日々の勉学に励みたいと思います。

記：国際シンポジウム実行委員 2年 日比生 利輝

7月5日 上田奨学会 奨学金貸与式・献花式

上田米蔵翁は、1958(昭和33)年、福岡赤十字高等看護学院(後の福岡赤十字看護専門学校)の創設時に多額の資金を拠出され、上田奨学会の設立から今日に至るまで、半世紀を越えて福岡の赤十字看護師養成に尽力くださった方です。現在では本学大学院生1名を対象に毎年奨学金が貸与されており、貸与式が行われました。

また、この日は上田米蔵翁の命日で、ご偉功に敬意を表し、毎年、献花式を行っています。今年も、梅雨の合間の青空に恵まれ、米蔵翁のご令孫である上田奨学会理事長上田康藏氏と同会理事を務める喜多学長が献花を行いました。

参照：上田米蔵翁銅像は2009(平成21)年にそれまで置かれていた日本赤十字社福岡県支部から本学に移転され、米蔵翁はいまも若き看護師たちの未来を見守っています。

記：研究科学務委員会



7月29日 オープンキャンパス・公開講座



本年度第1回目のオープンキャンパスを開催しました。過去最高の300人を超える参加者の皆様に対して、喜多学長より、本大学の看護教育にける熱い思いをお伝えしました。「入学試験相談コーナー」や「学費・奨学金相談コーナー」などでは、参加した高校生が、入学試験の種類や受験方法、大学で看護学を学ぶためには高校時代にどのように学んでいけばよいのかなどについて、納得のいくまで質問し、丁寧にアドバイスを受けていました。「看護体験、高機能シミュレーション教育コーナー」、「海外研修の発表会」、「救援活動時等のユニホーム試着コーナー」や、本学サークルを代表する「エイサー」のお披露目も大盛況でした。

記：入試委員会

さらに、当日は、2012年度前期公開講座として「東日本大震災—あの日から500日」をテーマに災害への対応を主題とする2講座を提供しました。前半は、講師に石巻赤十字病院の阿部清美看護副部長をお招きし、3月11日の震災発生後の数々の映像とともに壮絶な数日間の事態が紹介されました。後半は、災害派遣医療チームDMATの一員として被災地に派遣された本学の増山純二助教と、昨年8月に宮城県でボランティア活動を行った本学81名のチームから3年生の坂田壺さんと岩間梨津美さんが体験を語りました。学内外から200名ほどの参加者が集い熱心に耳を傾けました。未曾有の災害といわれる東日本大震災の経験を通して、私達は何を知り、何を肝に銘じなければならないのか、今回の講座を行動に踏み出すきっかけとしなければいけないと思いました。

記：地域交流委員会

みんなの広場

素敵なキャンパスライフを送っている在學生に、本学の魅力、看護の魅力を探りました。



中川 美季さん 2012年入学 福岡県・鞍手高校出身

私は看護師としてモロッコへ行っていた叔母に憧れ、国際的に活躍できる看護師になると思うようになりました。そして、本学なら日本だけではなく海外にも視野を広げることができると思い入学しました。入学当初は、高校と大学の違いに戸惑うこともあり、勉強についていくのが精一杯でした。しかし、大学生活が進むにつれ交友関係も広がりとても充実した生活が送れるようになりました。疑問点が見つかった時には、先生方は熱心に指導して下さるのですぐに解決することができます。恵まれた環境で学ぶことに感謝し、日本だけでなく国際的に活躍できる看護師になれるように4年間しっかり学んでいきたいと思えます。

岩橋 貞子さん 2009年入学 長崎県・長崎東高校出身

4年生になり、就職が目の前になり、改めて気が引きしめる思いです。8月初めには学生最後の実習が終わり、就職試験、国家試験に向けても本腰を入れる時期となりました。就職試験の準備は実習前から実習中も傾向を分析し、計画的に対策を行ってきました。国家試験に対しても、模試の分析や過去問を解くことで苦手分野克服に力を入れています。これも将来、自分の理想としている看護師に近づくためであり、日々研鑽していきたいです。



研究室訪問

楽しい授業を展開して下さる先生方。先生方の素顔をご紹介します。



学務部長／寺門 とも子 教授

Q:先生は普段どのような研究をされているのですか？

A:若者の向社会的行動に関心があります。卒業した看護学生が、新人看護師として社会化していくプロセスを研究しています。

Q:赤十字病院の看護部長としてご活躍された経験もお持ちですが、臨床の場で、面白いと感じたこと、難しいと感じたことなどをお聞かせください。

A:医療現場である臨床は、アクティブで生ものです。刻々と変化する事態に即対応する必要がある、それが興味深く、やりがいを感じていましたね。3.11の発災時は、まさにその状態の連続でした。看護部長として、救護チームを被災地に派遣した瞬間から無事に帰還する日まで、ずっと気がかりでした。日常の臨床やマネジメントをこなしつつ、被災地のことも、24時間頭から離れない日々を過ごしていました。

Q:先生のマイブームをお聞かせください。

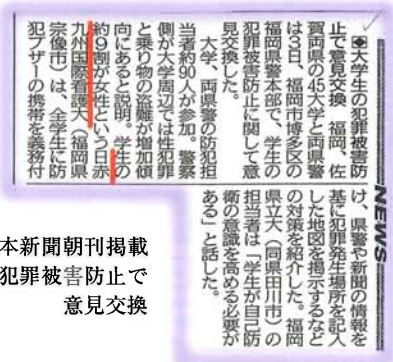
A:「めだか」に癒されながら、入れたてのコーヒーをいただく、毎朝の10分間。なぜか、金魚ではなく「めだか」なのです。

Q:在學生、そして受験生へのメッセージをお願いします。

A:看護の仕事は、エンターテインメント性は低く地味ですが、人が行うヒューマンケアとして、とても重要です。看護が、「社会的共通資本」として人々に支持されていけばと常々思っています。看護学生や看護師を志す方には、そんな社会を支える価値ある人材であることを自覚して看護実践能力を高めてほしいと願っています。

We're in Media

新聞に掲載された記事を集めました。



8月4日 西日本新聞朝刊掲載
大学生の犯罪被害防止で
意見交換



9月7日 朝日新聞朝刊掲載
看護師早期離職減らせ 「折れにくい」 学生育成
県立大や日赤九州国際看護大が連携



8月14日 毎日新聞朝刊掲載
「子宮頸がん予防」呼びかけ
「全国学生カンファレンス」



8月19日 西日本新聞朝刊掲載
伝える 忘れない 8.15
小倉の「8.9」学生がつなぐ

大学の財務状況

2011年度予算・決算比較

【消費収入の部】

(単位：円)

科目	予 算	決 算	差 異	備 考
学生納付金	811,750,000	776,150,000	35,600,000	学生授業料他
手数料	13,810,000	17,037,160	△3,227,160	入学検定料他
寄付金	4,052,000	5,534,700	△1,482,700	寄贈図書他
補助金	108,000,000	88,434,000	19,566,000	経常費補助金他
資産運用収入	15,210,000	15,203,096	6,904	受取利息
事業収入	270,971,000	29,611,986	△1,640,986	JICA受託事業収入他
雑収入	3,109,000	6,698,552	△3,589,552	科研費補助金間接経費他
内部取引	1,987,000	106,044,433	△104,057,433	
帰属収入合計	985,889,000	1,044,713,927	△58,824,927	
基本金組入額合計	△132,730,000	△110,600,863	△22,129,137	
消費収入の部合計	853,159,000	934,113,064	△80,954,064	

【消費支出の部】

(単位：円)

科目	予 算	決 算	差 異	備 考
人件費	571,865,000	547,747,196	24,117,804	教職員人件費
教育研究経費	324,504,000	326,147,380	△1,643,380	教育経費
管理経費	43,302,000	38,435,000	4,867,000	管理経費
資産処分差額	0	25,934	△25,934	教育研究用備品他の処分
内部取引	13,488,000	115,073,626	△101,585,626	
消費支出の部合計	953,159,000	1,027,429,136	△74,270,136	
当年度消費収入超過額 (又は消費支出超過額)	△100,000,000	△93,316,072		
前年度繰越消費収入超過額 (又は前年度繰越消費支出超過額)	503,003,000	526,172,291		
翌年度繰越消費収入超過額	403,003,000	432,856,219		

ひとりを看る目、その目を世界へ。



日本赤十字九州国際看護大学

The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

www.jrckicn.ac.jp

発行 日本赤十字九州国際看護大学 広報委員会
〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地